話題のファンド

世界ツーリズム株式ファンド（愛称：世界の旅）

キャピタル アセットマネジメント

GDP上回る高い成長力に投資

キャピタル アセットマネジメントが2019年6月に設定した「世界ツーリズム株式ファンド（愛称：世界の旅）」は、高い成長率が見込まれる旅行・観光産業に投資するテーマ型ファンドとして注目を集めている。8月6日現在の基準価額は14,283円、純資産総額は93億円。

■「グローバルツーリズム」がテーマ

同ファンドの主要投資対象は、世界各国・地域の取引所に上場している旅行関連企業が発行する株式等。「日本でインバウンドが好調のように、世界の観光産業も好調。旅行・観光業は隠れた成長業種でもある」（中川則彦運用本部株式運用部部長）として「グローバルツーリズム」をテーマに設定した。リーマン・ショックによる景気低迷やコロナのパンデミックなどで一時停滞を余儀なくされたものの成長トレンドは右肩上がりだ。

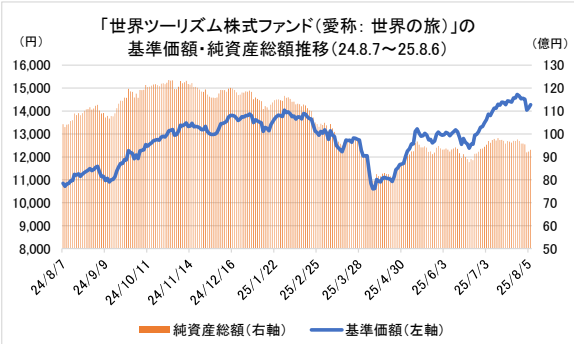
中川則彦運用本部株式運用部部長

背景にあるのは、①18年に14億人を突破した世界の国際観光客到着数は30年には18億人に達すると見込まれる、②高齢化が進み、時間や予算に余裕のあるシニア層が増加する、③中国、インドや東南アジア諸国などで中産階級層が大幅に増加し旅行需要が高まる、④パスポート保有者比率がインドで約7%と新興国の多くではまだ低く、今後、海外旅行ニーズが高まる余地が大きい、⑤「モノ消費」から滞在型の「コト消費」中心に旅行のスタイルが移り、旅行需要のポテンシャルが継続的に高止まることが予想される――などの点。22年から32年の世界GDPは約2.7%（IMF統計）なのに対し、観光産業は約5.8%（WTTC推計）と大きく上回る。

■ヨーロッパの観光関連銘柄に割安感

同ファンドは、グローバルツーリズムファンドの先駆けでもあるスペイン・バルセロナの独立系大手金融グループ「GVC Gaesco Group」から投資助言を受けている。

組入上位業種（6月30日現在）は、ホテル・リゾート・クルーズ船（49.7%）、旅客航空輸送（10.6%）、その他の専門小売り（9.3%）、空港サービス（8.1%）、カジノ・ゲーム（3.7%）など。組入比率上位の銘柄は、カーニバル（アメリカ。9.5%）、アボルタ（スイス。9.1%）、メリア・ホテル・インターナショナル（スペイン。9.0%）、アコー（フランス。5.9%）、トゥイ（ドイツ。4.8%）など。いずれも業界トップクラスを形成するグローバルツーリスト会社。「総じてヨーロッパの観光関連銘柄は割安感がある」（同）という。

■テーマ型ファンドへの投資の楽しさPR

販社はSBI新生銀行（金融商品仲介）、イオン銀行（同）とネット証券・東海東京証券等25社。「観光産業は高い成長が期待される投資先。インデックスファンドが全盛だが、テーマ型ファンドへの投資の楽しさをPRし、地域金融機関にも取り扱い拡大を図りたい」（同）考え。（宮島智章）